平成23年度重点プロジェクト事業（海外派遣研究員等旅費）報告

「国際柔道の試合礼法に関する研究－第7回国際柔道シンポジウムおよび2011世界柔道選手権パリ大会における資料収集」の報告

中村　勇*

はじめに

平成23年８月21日から８月30日までの期間，フランス共和国パリ市において第７回国際柔道シンポジウム（7th International Judo Symposium）と2011世界柔道選手権パリ大会（世界選手権）（2011 International World Judo Championships Paris）に参加してきた。

シンポジウムにおいては自らの研究成果をポスター発表すると共に欧州柔道史に関する講演や議論を通じて初期の国際柔道において礼法などの伝統がどのように伝播されていったかを把握することが目的であった。またその後で開催された世界選手権は選手やコーチの礼法やガッツポーズ等のマナーについての実態調査をすることが目的であった。

第７回国際柔道シンポジウム

「Research on judo contest bowing in World Judo Championships 2010 and Japanese national championship」のタイトルで行ったシンポジウムポスター発表では平成22年度重点研究プロジェクトとして実施した2010年の東京大会と同年全日本選抜柔道体重別選手権大会の礼法について比較した研究を発表した。国際大会の方が国内大会より礼法の実施率が低いという内容であったが，シンポジウム参加者からは国内大会での実施率（特に双方のタイミング）の低さに対して驚く反応がみられた。国際柔道界において日本は伝統遵守し適切な礼法を徹底していくべき立場でありながらそれが不十分である実態が明らかとなった。

また，複数の口頭発表ではフランスと英国の初期柔道史に関する情報が得られ，講道館柔道が正規ルートで伝わり始める以前に，すでに非正規ルートによる柔道や柔術が流入していたことが確認できた。

2011世界柔道選手権パリ大会

世界選手権は西欧諸国で最も柔道人気が高いと言われているフランス共和国のパリ市で開催されたが，スポーツとして柔道を楽しむ傾向が強い雰囲気の中での大会は前年の東京大会と較べて礼法軽視傾向やガッツポーズ等の派手なパフォーマンスが増加するのではないかと興味深く観戦した。

試合時立礼の中で開始礼（試合開始時に向かい合って実施する立礼）は厳密な形式通りではないものの特に問題となるようなケースはみられなかったが，試合場のプラットフォームに登壇する際に義務づけられている登壇礼は実施率が低く，規定は形がい化している傾向にあった。そもそも1990年代後半に試合場など空間に対する礼法が問題視されてから試合場内への礼と正面への礼が義務から任意に変更されたにも関わらず，この登壇礼は開始礼と並び義務と規定されたままである。開始礼と異なりこの礼は国際競技としての性質上義務化にはなじまないものであると考えられ，また主審からは死角となるため規制には別の仕組みが必要となってくる。今後，登壇礼を規定としてどう取り扱うか議論が必要であろう。

またガッツポーズ等のパフォーマンスはこの大会では目立って多かった。特にフランス選手らは

*鹿屋体育大学　スポーツ人文・応用社会科学系

勝利後に観客をあおるようなパフォーマンスを行っていた。エネルギッシュな場内アナウンスも相まって会場内が沸き立つ様子は抑制を美徳とする伝統的な柔道の価値観とは全く異なるものであり人気スポーツのそれであった。こういった状況は前年の東京大会ではみられなかったもので，同一選手が会場の環境によって異なったふるまいをみせていた点は興味深いものであった。

このように「観て盛り上がるスポーツとしての柔道」の面が強調された一方で，観客をあおるような選手のパフォーマンス行為に対して国際柔道連盟は大会中に緊急理事会を開き，当該選手の所属連盟に対して指導を要請する措置が講じられた。国際柔道界は大会の盛り上がりを重視する一方で，相手を尊重し自己抑制を美徳とする柔道独自の価値観とどのようにバランスをとるべきか模索している印象を受けた。

まとめ

今回の海外研修で柔道がフランスを中心とした欧米社会で人気スポーツとして受容されている一方で，選手による過度のパフォーマンスに対する批判や柔道の伝統面に関する学術研究などの拡がりを知ることができた。柔道が一スポーツとしてだけではなく武道という伝統を持った独自性を持ったスポーツとしてアピールしようとする国際柔道界の動きが明らかになった。

The VII International Judo Research Symposium

22 August 2011

Programme

Hotel Novotel Paris Bercy, 85 rue de Bercy, 75012 PARIS. FRANCE

Time	Activity
0900 - 0930	Registration
0930 - 0935	Welcome from the President of the IAJR, Dr Mike Callan
0935	History of Judo oral presentations commence
0935 – 0955	The history of Dan system for female Judo Presenter: Associate Professor Noriko Mizoguchi. Shizuoka University of Art and Culture. Japan
0955 – 1015	Gunji Koizumi Presenter: Dr Mike Callan. Anglia Ruskin University. England
1015 – 1035	History of International Judo Presenter: Professor Michel Brousse. l'Université de Bordeaux 2. France
1035 – 1055	Dr Shigeyoshi Matsumae Presenter: Professor Yasuhiro Yamashita. Tokai University. Japan
1055 – 1115	Questions
1130 – 1230	Poster Presentations. Researchers and visitors are free to browse the posters, and continue through lunchtime.
1230 - 1415	Lunch
1415	Return to Conference Room
1430	Science of Judo oral presentations commence
1430 – 1450	Disabled people and the Potential of Judo Presenter: Professor Takeshi Nakajima. Kokushikan University. Japan
1450 – 1510	Specific Exercise Testing in judo athletes Presenter: Ms Elena Pocecco. University of Innsbruck. Austria
1510 – 1530	Modelling judo grip contest and simulations Presenter: Professor Michel Calmet. Université de Montpellier 1. France
1530 – 1550	The performance of Explosive Muscular Actions of the Lower Body in Judo Athletes Presneter: Professor Luis Montiero. Lusofona University. Portugal.
1550 – 1610	Questions
1610 - 1630	Prizegiving and Conclusion
1630 - 1730	IAJR General Assembly

www.judoresearch.org

Thank you to our supporters:

図1　国際柔道シンポジウムのプログラム